

藤波こども園

園長だより

No. 72

令和3年6月30日
文責 竹原 篤



旧 藤波幼稚園 現 藤波こども園

こども園ではコロナ禍の中、感染防止対策をとりながら、子どもたちの思いに寄り添う保育・教育を進めています。保護者の皆様にも毎日の健康観察票の記入をはじめ発熱後24時間の養生・バスの乗車人数制限・玄関での手指消毒等にご理解とご協力をいただき感謝しています。

さて、このような状況下ではありますが、月組の子どもたちから、「遠足で行った朽木の森に代わる場所を探そう」という声が上がリ、子どもたちと相談し、近くの田んぼへ出かけました。何度も行くうちに「もっといろんな所へ行ってみたい。」「田んぼの生き物以外のものもつかんでみたい!」という声から、子どもたちの思いを中心にザリガニつりの計画を立て実施しました。その時の様子を紹介します。



- ・1日目1匹もつれず悔しそうだった子どもが「次は絶対にザリガニ釣るからな!!」とつぶやき、2日目には自分で工夫したのか「初めてつれた! 自分でつれた!」と大喜びでした。その後、「もっと釣りたいけどザリガニが怖い」と葛藤する気持ちを声に出し、頑張っている姿が見られました。
- ・友だちが釣り上げたザリガニを手でつかむことができず困っていると、近くにいた男の子が自ら進んでザリガニをつかんでバケツに入れてくれました。この二人はお互いが自然に向き合い「ありがとう」「うん」という姿がとても生き生きとしていました。
- ・ザリガニつりも終わり、釣り上げたザリガニをどうするかという話し合いになりました。「全部持って帰る」という意見が出ました。その後、「そんなに育てられん」という意見が出て、子どもたちは次々に自分の思いを伝え合い「みんなで3匹はどう?」「じゃあ2匹は?」「でかいの2匹持って帰ろうか!!」などと。最終的には持ち帰るザリガニについて多くの意見を出し合い、大きな2匹を選び持ち帰ることになりました。
- ・大きい方のザリガニがもう1匹のザリガニをはさみではさんでいた話をきいて、子どもたちは話し合い、「持ち帰った園のザリガニを1匹返して、新しいザリガニとかえよう」と決めてくれました。月曜日にザリガニの1匹が死んでいて、子どもたちは口々に「かわいそう」「1匹だけにしといたらよかったなあ、ごめんなあ」、みんなはザリガニを大切に思い、「自分たちのやしなあ! おはかつくろう」と丁寧にお墓を作りました。
- ・持ち帰ったザリガニの死から、どの子も自分のこととして、どうしたらよいか、考え、行動する姿が見られました。
- ・友だちがなかなかザリガニをつることができず、それでも頑張ってみようとするがあと少しのところではちょっと落ちてしまう。そんな姿を見て「めっちゃくちゃおしかったなあ!」「がんばれ!」と励ます姿が見られました。その後、本人も「人生で初めてつれた!」と自分もつれると心から嬉しそうな姿を見せてくれました。

- ・友だちがザリガニをさわれずに困っていると、自分も怖いのに勇気を出して、ザリガニをつかもうと努力し、何度も諦めそうになりながらも最後はつかむことができ、両手で「バンザイやったー！！」と喜びました。「勇気をだしてやったら、できた！！」と。つかむことができた喜びを身体で表現していました。その後、気づくと2人が力を合わせて、励まし合ったり、困ったときに手をかしたりしながら、友だちがつれたら、自分のことのように「やったなあー！よっしゃー！！」と二人で喜ぶ姿が見られました。
- ・1日目は1匹もつれず、最後の方でつりのひもを落としてしまい、涙していたが、先生の声かけに指差しではあったが、自分の困りごとを伝えることができました。「今度、ザリガニつりがあったらどうする？」と聞いてみると「行く！！」とすぐ答えてくれました。このような気持ちがこの子さんから出てきたことがとても嬉しかったです。2日目は自分の力で4匹もつることができ、「なんで エサがさがらへんの？」「バケツに水くんで」等つりをしているときも自分の思いを伝える姿が見られました。「家でも、はじめはつれなかったけど、次の日はお家の人につれた話やザリガニのつり方を話してくれました」とお母さんより聞き、心が動く体験をすることで自然と言葉が出てくるんですね。
- ・ザリガニつりのコツをつかみ、次々とつり上げ、自分でつかみ持つことができるようになった子どもがみんなに頼られる姿が見られました。この経験が本人の自信にもなり、心の余裕にもつながり、おしまいができない友だちに「あすもいけるしいいやん」、ザリガニつりに気持ちが向けにくい子には「ここの神社ひろいんやし、好きなことしたらいいやん」などと声をかけていました。
- ・つり上げたザリガニを持ち帰るときに、いっぱい持って帰りたいなあ。でもけんかしたらあかんなあと思い直し、オスとメスを1匹ずつ持ち帰ることになり、結婚して赤ちゃんを産んでほしいと願う子どもの姿が見られました。その後、大きなザリガニをつり上げた子どもが「持って帰りたい」と思いを伝えると、みんなで相談して、「3匹になっちゃうとけんかになるし、次くる時に、1匹もってきて 逃がして、大きいザリガニを持って帰ったら」ということで納得しました。「もし、次の日に大きいザリガニがつれなかったらどうする？」という声もありましたが、「今日の夜の間にエサをいっぱい食べて明日はもっと大きくなっているから大丈夫」ということになりました。けれど、2匹の体格差により1匹が負けてしまい死んでしまいました。「なんでやろう？かわいそう！ やっぱり大きすぎたから？ 小さいザリガニがやられたんやなあ。」「今度は同じくらいの大きさにしよう」とお墓を作り、お花を供えてくれる姿を見ることができました。

これからも子どもたちの純粋な声や姿を大切に自然の中(生き物)から学んだ多くのことを大切に、保育・教育を進めていきたいと考えています。

職員室にいと!!

子どもたちが可愛い声やあせった声で、また優しい笑顔や陰しい顔つきで来てくれます。笑顔の時は「こんなのできたよ」「こんなのみつけたよ」と作品や園庭で捕まえた赤ちゃんバッタ・ダンゴムシを見せに来てくれます。あせった声の時は「ごつつんこして、いたがっているからひやすものください」・「おともだちがケガしたので、はるもんください」など。自分のことだけでなく、お友だちが困っていることなどの思いをしっかりと伝えるようになってきました。

🌸ありがとうございます🌸

【いただきました】

- | | | |
|-----------|-----|------|
| ①青虫付きキャベツ | 十八川 | 井ノ口様 |
| ②じゃがいも | 四津川 | 保護者様 |
| ③絵本 | 京都 | 中川様 |

